



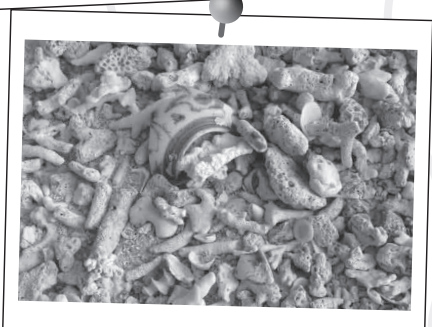
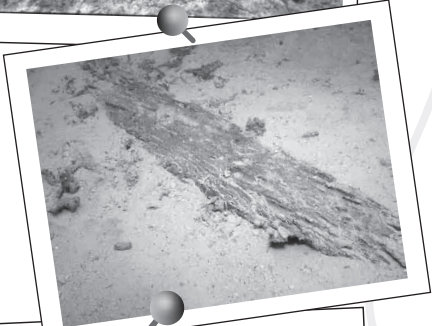
南西諸島は、日本でも最も広い海域を有する島嶼群です。そのため、この海を介して様々な営み、交流・交易が行われた歴史があります。

特に、琉球王国の時代には遠く東南アジアまで船旅をし、また中国や日本以外にも外国の船舶がこの海域を往來していました。このような歴史的な背景は、陸上にある様々な遺跡や、残された文献などからも知ることができます。

この海で起こった歴史が、その海底に今も残されていることはあまり知られていません。沖縄をはじめとする南西諸島の島々の近海では、航行した船の積荷が今も沈んでいます。

海中に残されたこのような「歴史のカケラ（水中文化遺産）」から、どのような歴史に迫れるのか、今回「海に沈んだ歴史のカケラ」と題して南西諸島における水中文化遺産について知る機会になればと考え、講演会を企画しました。

是非、多くの方にご参加いただき、知られざる海の歴史、魅力ある水中文化遺産の世界を皆さまと一緒に探求する機会になればと考え、ご案内させていただきます。



## 日程

12:30 開場

### 基調講演

13:00 ~ 14:40 (各 50 分)

講演 1 林田憲三 (NPO 法人アジア水中考古学研究所理事長)  
「水中文化遺産の魅力」

講演 2 片桐千亜紀 (沖縄県立博物館・美術館)  
「南西諸島の水中文化遺産について」

### 休憩

14:40 ~ 14:55 (映像資料紹介)

### 研究報告

14:55 ~ 16:15 (各 20 分)

報告 1 「海岸採集遺物から見た島の陶磁器流通」  
渡辺 芳郎 (鹿児島大学)

報告 2 「(仮題) 文献からみた船舶座礁の記録とその対応」  
渡辺 美季 (神奈川大学)

・・・ほか、2 題予定

### 会場設営

16:15 ~ 16:20

### シンポジウム

16:20 ~ 17:00

南西諸島の水中文化遺産の世界